

プロスポーツチームと連携したまちづくり 長野県 × 一般社団法人長野ITコラボレーションプラットフォーム

取組概要

スポーツ庁が推進するスポーツ産業の成長促進事業「スポーツオープンイノベーション推進事業（地域版SOIPの先進事例形成）」を通して、参画したスポーツチームが行政や企業と連携・共創し、地元のスポーツ産業の活性化や住民の健康増進につながる新事業の創出を目指しています。本事業は「一般社団法人長野ITコラボレーションプラットフォーム」が地域パートナーとしての役割を担います。



地域版SOIP <甲信越・北陸編>



スポーツを核とした産業振興と社会課題解決

基本情報

代表地方公共団体	長野県
代表民間団体	一般社団法人長野ITコラボレーションプラットフォーム
他の連携団体等	公益財団法人長野県スキー連盟、株式会社信州スポーツスピリット、松本山雅FC
カテゴリ	ゼロカーボン／健康増進／地域振興・交流
事業費	
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2022年9月～2023年2月 スポーツ×他産業による新規事業アイデアを創出、実証実験を行う。

取組内容



地域版SOIP <甲信越・北陸編>



スポーツを核とした産業振興と社会課題解決

この取組で解決した課題	<p>【公益財団法人 長野県スキー連盟】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の車離れ、コロナ禍等で減少するスキー/スノーボード参加人口の維持と拡大 ・スキー/スノーボード体験の費用対効果（満足度）の向上 ・アフタースキー/スノーボード体験をサポートする環境整備と人材育成 <p>【信州プレイブウォリアーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野市が策定しているスポーツを軸としたまちづくり方針との連携 ・2026年から始まる新B1基準を見据えた対応を推進（新基準例：2期連続平均4,000名以上の集客、売上高12億円以上、新規アリーナ基準など） ・拠点地域（長野市近辺）以外からの試合観戦者の増員を目指す <p>【松本山雅FC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーグの中でもトップクラスの地域貢献活動や社会連携を実施 ・これまでの活動の整理やアップデートの機会としたい ・地域の皆様と一緒に持続可能な形で地域課題の解決に取り組みたい
解決に向けた手法	<p>現在、各スポーツチームの社会課題テーマを元に共創のステークホルダーと事業アイデアを検討中。以下は共創アイデア例。</p> <p>【公益財団法人 長野県スキー連盟】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキーの上達を通じたファンエンゲージメント向上 ・あたらしい顧客体験を提供する新スキースクール ・冬・白馬村を訪問しなくなる機会・仕組みの創出 <p>【信州プレイブウォリアーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康増進によるファン獲得 ・食を起点にした体験による観戦価値の向上 ・世界に誇れる観光資産と試合観戦による観光モデル <p>【松本山雅FC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンに向けてのCO2削減量の見える化 ・消耗品や備品のアップサイクル環境の実現 ・スタジアムに足を運んでもらう参加型SDGs企画

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツチーム（公益財団法人 長野県スキー連盟、株式会社 信州スポーツスピリット、松本山雅FC） <ul style="list-style-type: none"> ・チームの課題、及び地域の社会課題を解決するためのテーマを設定する。 ・企業と共に事業アイデアを作成し、実証実験を実施する。 ■一般社団法人 長野ITコラボレーションプラットフォーム <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツチームと企業にディレクションと各種調整を実施する。 ・取り組みの発信を行う。
地域関係者との連携方法	<ul style="list-style-type: none"> ■一般社団法人 長野県経営者協会 <ul style="list-style-type: none"> 地元会員企業630社とのコネクションを活かし、取り組み内容の周知と事業への協力を行う。 ■株式会社 スポーツビズ <ul style="list-style-type: none"> スポーツ産業やビジネス全般に対する知識・ネットワークの提供と、スポーツ産業に関連するカンファレンスの開催実績を踏まえたアドバイザー。 ■長野朝日放送 <ul style="list-style-type: none"> サポート企業として参画。テレビを通じた広報活動を行う。
資金調達方法	スポーツ庁が推進するスポーツ産業の成長促進事業「スポーツオープンイノベーション推進事業（地域版SOIPの先進事例形成）」受託費用
資金調達方法の補足	
事業推進上の課題・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■事業性 <ul style="list-style-type: none"> 単発の実証実験で終わらず、持続的な取り組みとしてプロスポーツチームが事業化できる仕組みづくり。アイデアや技術検証だけではなく、継続的なマネタイズモデルも含め、各領域専門のメンターによるアドバイスとプロジェクトのディレクションによりビジネスプランのブラッシュアップを行う ■地域性 <ul style="list-style-type: none"> 新しい技術を活用したオープンイノベーションというだけではなく、地域の企業（スポンサー含む）や住民（サポーター含む）と共に、地域内でヒト・モノ・カネが好循環を生むような仕掛けづくり。スポーツを核とした持続的なまちづくりへの挑戦 ■共感/共創 <ul style="list-style-type: none"> 協働していくために必要なマインドセットと、スポーツを起点としたコミュニケーション

担当者のコメント

■スポーツの価値の再発見

やる・観る・知る・支える、というスポーツの楽しみ方に加え、持続的なまちづくりに向けてスポーツが核となり得ること。スポーツを中心に様々な産業振興に発展し、それが地域の社会課題解決に向けたチャレンジにもつながること。

■地域企業や住民の行動変容

スポーツチームを中心としたライフスタイル・ライフステージを描くことで、金銭的なベネフィット（クーポン等）だけではなく、スポーツチームと共に成長する社会価値や体験価値が、地域の住民や企業の行動変容を促すこと。地域のスポーツチームと関わり、支え、また自身が支えられるという相互の関係性の中で、住民のQOLの向上や雇用の創出、産業振興等、持続的なまちづくりにつながっていくという好循環。

■地域との一体感がある事業

1998年にオリンピック・パラリンピックを開催した地・長野。地域の自治体・企業・団体・市民・ファンなどによる強力なサポートのもと、「スポーツ×〇〇」の新ビジネスの創出・社会実装を目指すことで新しい価値を創出し『世界のNAGANO』ブランドを発信。



甲信越・北陸エリアの参加3スポーツチーム

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 趣味・趣向の世界との連携により、コアな取り組みを進めるグループの拡大がしやすくなることで社会・地域課題解決につながる人と人がつながるきっかけを作ることができます。それにより、コアグループだけでなくその外側にいる活動に参加したい方々との距離をち詰め、小さな『活動』から『運動』に徐々に拡大する可能性ができ、地方創生SDGsにかかわる課題解決を持続性をもって推進することが見込めます。</p> <p>②ステークホルダ連携 住民参加にあたってスポーツといった趣味・趣向でコミュニティがすでに形成されているグループに対して、社会課題に関心のある方にアプローチがしやすく、目づ、応援する、プレーする行動に対してベネフィットバックにもつながること想定ができ、関心度が低い方でも活動することで貢献できる機会を提供することも可能になります。今回スポーツ団体やチームと連携は、企業間の連携はもとより、県立大学などのアカデミー、連携する県や基礎自治体とのハブとして連携を推進するNICOLLAPと連携することで、一テーマ目的の社会課題解決に終わらず、多種多様なテーマ課題に対する取り組みを推進する環境を提供することも可能になります。</p> <p>③モデル性・波及性 本会の活動は、一分野や単一領域での社会課題解決を単発で行うのではなく、地域で多種多様な社会課題解決を推進できるモデル事例と自負し、企業はもとより、自治体からも高い関心と協力を得ております。また今後各課題に取り組むコミュニティを複数連携するハブとして、コミュニティ間連携するなど、テーマ設定された社会課題だけでなく、周辺領域への波及力も十分に持ち合わせるものと思います。まずは環境をしっかり作り、様々なテーマ企業、そして何よりも住民の生活が豊かになる取り組みを推進してまいります。</p>
----------------	---